

第6回龍ヶ崎椿展報告

河内町 熊木 恒夫

4月6日（日）、「どらすて」を会場に「第6回龍ヶ崎椿展」が開催された。開場20分前には、苗木のプレゼントに15名の方が列をつくられた。早く並ばれた方から、「昨年購入した苗木に花が咲きました」、「今年も珍しい苗木を買って、育ててみたい」等のお話があり、椿展を楽しみにしている気持ちが伝わってきました。30分後には、34枚の整理券がなくなってしまうほどで今日一日が盛況な催しになるだろうという予兆を感じさせる開始でした。

自宅の庭に咲いている花を持参されて、花の名前について質問に訪れたご夫婦がおり、会員の方が種類、産地などを懇切丁寧に説明されたので、得心がいった様子で帰られた。会員の普段からの勉強ぶりが窺える情景であった。



展示された切り花についての来場者の感想は様々であったが、「椿の種類が多さや、花の微妙な違いとその美しさに」感動したとの声が圧倒的に多かった。盆栽の椿を鑑賞された方は「枝振りの工夫や管理で苦労された点」など出品者に質問されていた。出来あがるまでの過程で苦心したことのさりげない説明は、実際に造られた方でないと語れない内容で説得力があった。

苗木の販売は、ホームセンターの売り場とは全く違って、お客様の要望について丁寧に対応していた。「白い一重の花はどれか」とか、「濃い赤く大きな花がほしい」とかの希望に合う苗木を会員の方が選んで示された。注文をつけな

いで苗木を買われた方には、その花の特徴や咲く時期などを説明されていた。その際、鉢植えの場合は、「鉢の大きさ・土の種類・移し替える時の注意点」。地植えの時は、植える良い場所の説明など、具体的に示されていたので、安心して買われていた。会員の専門的な知識が遺憾なく発揮される場でもあった。



沖の浪2鉢 (出品：飯田庸夫)



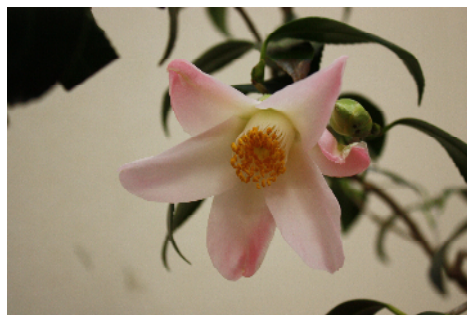
釣り簞



さくら



想い紅



夢の古里

茶会には椿の花が欠かせない添え物で、会場では女子会員の立てられた「茶」を所望されるお客で、設けられた茶席が賑わいを見せていた。

昼にそれまで晴れていた空が、急に真っ黒く曇り、雷まで鳴りだして雨が降り始めた。雨は短時間で止んだが、不安定な天候が見学に出掛けてみようとする人たちの心理に少なからず影響を与えたことが残念であった。

中山一生龍ヶ崎市長がご自宅から歩いて会場にお見えになり、会員の説明を

熱心に聞いておられた。写真撮影のあとに川北嗣夫龍ヶ崎市商工会長とご一緒に「お茶」を楽しまれてからお帰りになった。

終了後に、展示された切り花をもらいたいと予約された方も数名見えて、持って帰られたのには、いかに椿の花に関心が深い方がいるのか実感できた。

来場者は150名で、昨年を上回った。天気にも左右されたが課題である。

展示会の開催には、実行委員会で詳細な打ち合わせを行い、役割分担表をもとに担当者が事前準備をされていた。前日の会場作りに始まり、会員全員の協力体制があつて、成果をあげることができた。個々人の分担された作業についても、名前をあげて取組を詳細に報告しなければならないところですが、字数の関係で割愛せざるを得なかったことをご容赦ください。



吉田盈夫実行委員長を囲んで
最後になりましたが、出展された椿の品種名を挙げます。

中山一生竜ヶ崎市長（前列中央）